

Asia-Pacific Psychiatry 2015;7:105-112.

The Autism-Spectrum Quotient in university students: Pattern of changes in its scores and associated factors

(大学生における自閉症スペクトラム指数：その得点の変化のパターンと関連する要因)

執筆者

Noriko Kitazoe, Simpei Inoue, Yuji Izumoto, Naoko Kumagai, Yasumasa Iwasaki

概要

【はじめに】

自閉スペクトラム症（ASD）のある大学生を支援することは、重要性が高まってきている。大学生の ASD をスクリーニングするのに、自閉症スペクトラム指数（AQ）が有効であるかを確認するために、大学生の大規模なサンプルに AQ を縦断的に測定した。AQ の変化と関連する要因について調査した。

【方法】

大学入学時に、AQ、UPI 学生精神的健康調査（UPI）、面接を受ける意思があるか、を調査した。AQ は 2 年目にも再度調査した。AQ の変化と関連する要因は統計的に解析された。

【結果】

最初の調査での有効回答数は、3427 人（87.2%）であった。UPI の得点が高い群は、AQ が有意に高くなった（ $F=156.08$, $p<0.001$ ）。そのうち、486 人の学生が入学時に面接を受け、22 人が ASD の疑いがあった。ASD に対する AQ の感度/特異度は、81.8%/92.0%であった。319 人（11.0%）の大学生が 2 年目の調査に回答し、入学時に AQ が高かった群では AQ の得点が有意に下がっていることが明らかになった。

【結論】

入学時に測定された AQ は、性別や学部に関わらず、UPI と相関があった。2 年目の調査では、入学時に AQ が高かった群は有意に得点が下がり、不安定な精神状態によって一時的に AQ 得点が上昇していた可能性が考えらる。